

市民の生活状況に関する調査  
(ひきこもりに関する実態調査)  
報告書

令和 2 年度  
函 館 市

# 目次

<b>I 調査の概要</b>	
(1) 調査の目的 .....	2
(2) 調査の方法 .....	2
(3) ひきこもり群等の判定方法について .....	4
<b>II 調査結果の概要</b>	
(1) 回答者属性 .....	8
(2) 年齢階層別推計値 .....	12
(3) 調査結果のまとめ .....	13
<b>III 本人向けアンケート調査の結果</b>	
(1) 基本的属性について .....	16
(2) 学校生活に関すること .....	26
(3) 就労等に関すること .....	33
(4) ふだんの活動に関すること .....	38
(5) ひきこもりの状態に関すること .....	40
(6) 相談機関に関すること .....	44
(7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること .....	48
(8) 自分についてあてはまること .....	53
(9) 悩み事の相談に関すること .....	69
<b>IV 家族向けアンケート調査の結果</b>	
(1) 調査対象者および家族の基本的属性について .....	74
(2) 調査対象者の学校生活に関すること .....	79
(3) 調査対象者の就労等に関すること .....	81
(4) 調査対象者のふだんの活動に関すること .....	82
(5) 調査対象者のひきこもりの状態に関すること .....	84
(6) 相談機関に関すること .....	88
(7) 調査対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること .....	91
(8) 身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの支援のあり方について .....	94
<b>V 民生委員・児童委員向けアンケート調査の結果</b>	
(1) ひきこもり等の状態該当者について .....	98
(2) ひきこもり等の方への支援策 .....	105
(3) その他、ご意見やお気づきの点について .....	106
<b>各調査の調査票</b>	108

## 【調査結果の留意点】

グラフを見やすくするため、一部の設問を除き、グラフの0.0%の表示を割愛しました。

## I 調査の概要

# I 調査の概要

## (1) 調査の目的

全国的にひきこもりの長期化や高年齢化が問題となっていることを踏まえ、ひきこもり等の困難を抱える市民の実態や当事者のニーズ・課題等を明らかにし、その結果に基づき必要な人に支援が届く体制を構築することを目指す。

## (2) 調査の方法

### ■調査項目

調査票は「15歳～64歳の函館市民（本人回答）」、「家族（家族回答）」、「民生委員・児童委員」の3種類を作成した。それぞれの調査票の調査項目を以下に示す。

調査票	調査項目	設問番号
15歳～64歳の函館市民 (本人回答)	(1) 基本的属性について (2) 学校生活に関すること (3) 就労等に関すること (4) 普段の活動に関すること (5) ひきこもりの状態に関すること (6) 相談機関に関すること (7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること (8) 自分についてあてはまること (9) 悩み事の相談に関すること	Q1～Q7 Q8～Q11 Q12～Q15 Q16 Q17～Q20 Q21～Q23 Q24～Q28 Q29 Q30～Q31
上記の家族 (家族回答)	(1) 調査対象者および家族の基本的属性について (2) 調査対象者の学校生活に関すること (3) 調査対象者の就労等に関すること (4) 調査対象者の普段の活動に関すること (5) 調査対象者のひきこもりの状態に関すること (6) 相談機関に関すること (7) 調査対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること (8) 身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの支援のあり方について	Q1～Q5 Q6～Q7 Q8 Q9～Q10 Q11～Q14 Q15～Q16 Q17～Q19 Q20
民生委員・児童委員	(1) ひきこもり等の状態該当者について (2) ひきこもり等の方への支援策 (3) その他、ご意見やお気づきの点について	問1～問3 問4 問5

## ■調査対象

- ア 15歳～64歳の函館市民を対象に、単身世帯を除く本人5,000人と同居する家族5,000人を無作為抽出した。
- イ 民生委員・児童委員702人には、全員配布とした。

## ■調査方法

調査票を郵送配布・郵送回収する方法で実施。

## ■調査時期

令和2年6月30日発送～8月15日までの回収分を集計

## ■回収状況

調査対象	調査数	回収数	回収率
15歳～64歳の函館市民	5,000	1,915	38.3%
上記の家族	5,000	1,663	33.3%
民生委員・児童委員	702	589	83.9%

### (3) ひきこもり群等の判定方法について

ひきこもり群等の判定については、内閣府が平成28年9月に発表した「若者の生活に関する調査報告書」の定義に準拠して行った。

#### ■広義のひきこもり群について

「Q17 ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者

- 5. 趣味の用事のときだけ外出する
- 6. 近所のコンビニなどには出かける
- 7. 自室からは出るが、家からは出ない
- 8. 自室からほとんど出ない

かつ

「Q19 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6か月以上と回答した者

であって、次の3類型のいずれにも該当しない者。

① 「Q20 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、  
「病気（病名：）」を選択し、病名に身体的病気の病名を記入した者  
「妊娠した」を選択した者、  
「その他（　）」を選択し、（　）に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

② 「Q12 あなたは現在働いておられますか。」で、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」と回答した者

③ 「Q16 普段ご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。」で、「家事・育児をする」と回答した者

#### ■狭義のひきこもり群について

上記の「広義のひきこもり群」から「5. 趣味の用事のときだけ外出する」を除いた者を「狭義のひきこもり群」とする。

## ■ 親和群について

親和群とは、「ひきこもりを共感・理解し、ともすると閉じこもりたいと思うことがある人たち」であり、この人たちの抽出については、以下の①・②に該当する者から「広義のひきこもり群」を除いた者とした。

- ① Q29 13～16 の 4 項目すべてに「1. はい」と答えた者
- ② Q29 13～16 の 4 項目のうち、3 項目に「1. はい」と答え、かつ、残りの 1 項目を「2. どちらかといえば はい」と答えた者

Q29 次にあげられることについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。(○は各項目につき、ひとつだけ)

13. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる

- |       |                |                 |        |
|-------|----------------|-----------------|--------|
| 1. はい | 2. どちらかといえば はい | 3. どちらかといえば いいえ | 4. いいえ |
|-------|----------------|-----------------|--------|

14. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある

- |       |                |                 |        |
|-------|----------------|-----------------|--------|
| 1. はい | 2. どちらかといえば はい | 3. どちらかといえば いいえ | 4. いいえ |
|-------|----------------|-----------------|--------|

15. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる

- |       |                |                 |        |
|-------|----------------|-----------------|--------|
| 1. はい | 2. どちらかといえば はい | 3. どちらかといえば いいえ | 4. いいえ |
|-------|----------------|-----------------|--------|

16. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

- |       |                |                 |        |
|-------|----------------|-----------------|--------|
| 1. はい | 2. どちらかといえば はい | 3. どちらかといえば いいえ | 4. いいえ |
|-------|----------------|-----------------|--------|



## II 調査結果の概要

## II 調査結果の概要

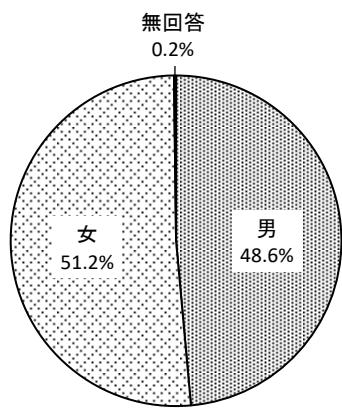
### (1) 回答者属性

#### ■回答者属性・本人回答

本人向け調査票の回答者 1,915 人のうち、性別は男性が 48.6%、女性が 51.2% となっている。年齢別は 60 歳～64 歳が 21.7% とやや多く、20 歳～24 歳が 4.7% とやや少ないが、各世代からの回答が得られた。広義のひきこもり群は 4.2%，親和群は 3.0% という結果が得られた。

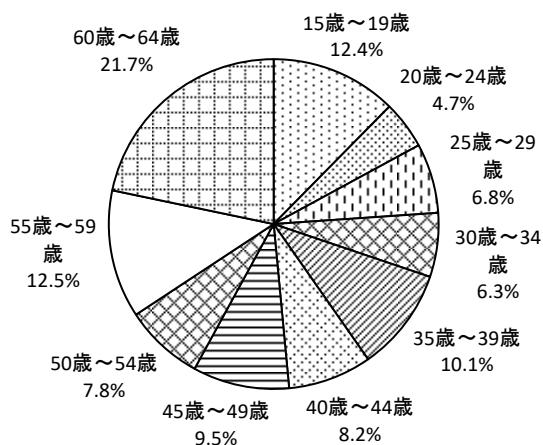
【性別】

(全体:1,915人)



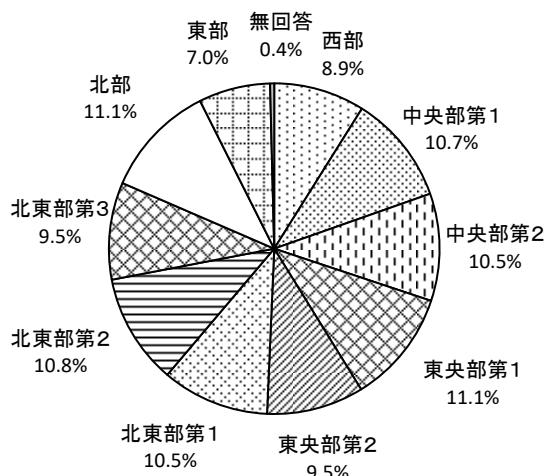
【年齢】

(全体:1,915人)



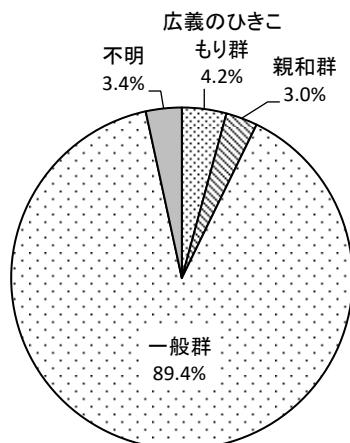
【地区別】

(全体:1,915人)



【ひきこもり判定】

(全体:1,915人)



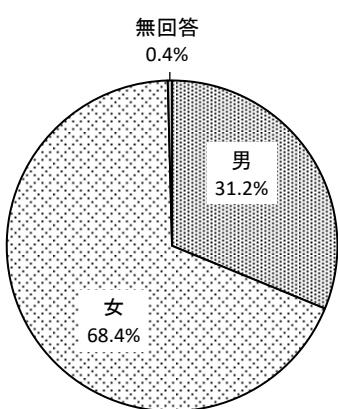
## ■回答者属性・家族回答

家族向け調査票の回答者 1,663 人のうち、回答者の性別は男性が 31.2%，女性が 68.4% となっている。

調査対象者の年齢別は 60 歳～64 歳が 24.6% と多く、20 歳～24 歳が 3.9% とやや少ないが、各世代からの回答が得られた。広義のひきこもり群は 3.5% という結果が得られた（家族回答では親和群の選別はできないため、広義のひきこもり群以外を一括で一般群とした）。

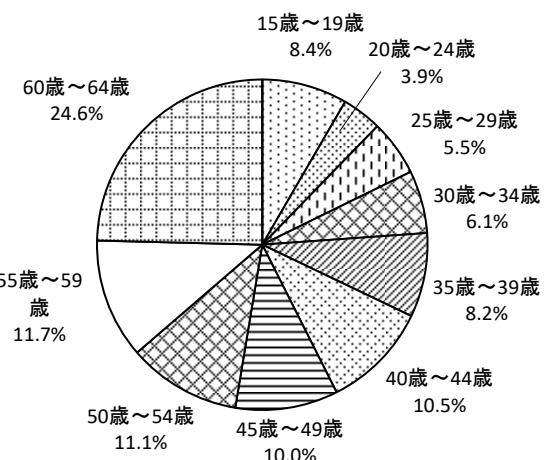
【性別】

(全体:1,663人)



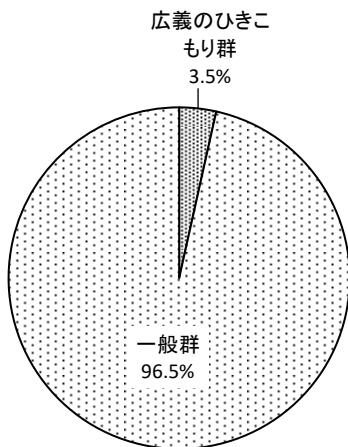
【年齢】

(全体:1,663人)



【ひきこもり判定】

(全体:1,663人)

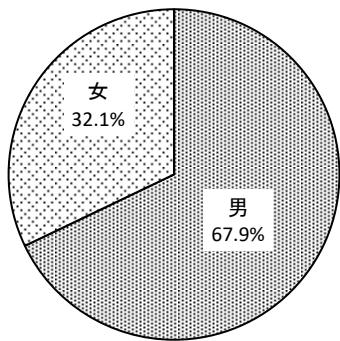


## ■ ひきこもり群

本人回答によると、広義のひきこもり群のうち、男性が 67.9%，女性が 32.1% となっている。年齢別は 60 歳～64 歳が 28.5% と多いが、どの世代にも幅広く分布している。家族回答によると、広義のひきこもり群のうち、年齢別は 60 歳～64 歳が 39.8% と多いが、どの世代にも幅広く分布している。

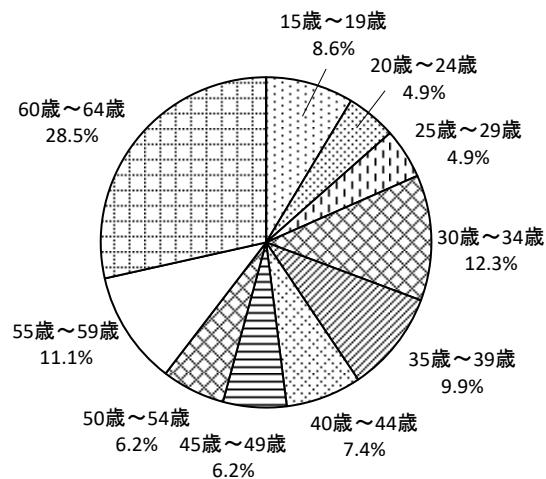
【性別】

(広義のひきこもり群・本人回答:81人)



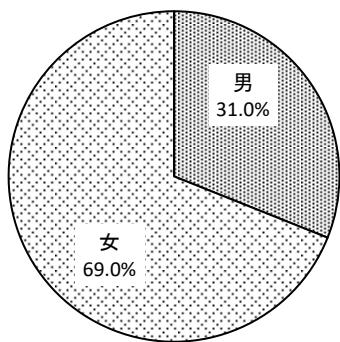
【年齢】

(広義のひきこもり群・本人回答:81人)



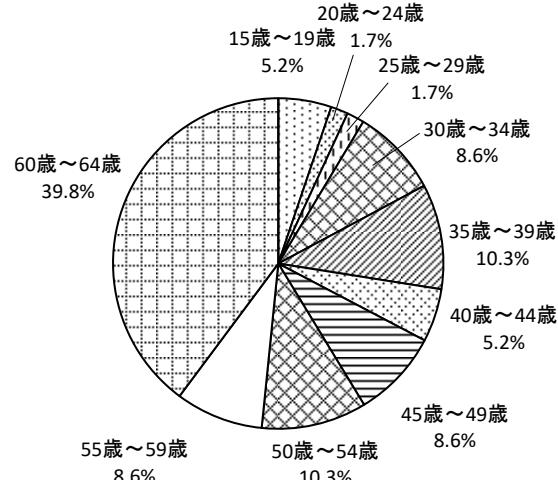
【性別（回答者）】

(広義のひきこもり群・家族回答:58人)



【年齢】

(広義のひきこもり群・家族回答:58人)

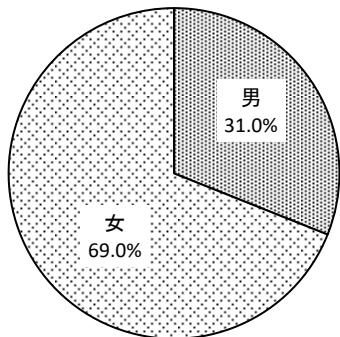


## ■ 親和群

本人回答によると、親和群のうち、男性が 31.0%，女性が 69.0% となっている。年齢別は 35 歳～39 歳が 19.1% とやや多く、15 歳～19 歳が 17.2% と続くが、どの世代にも幅広く分布している。

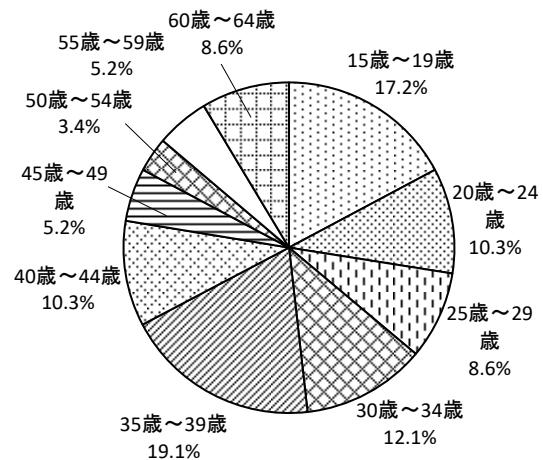
【性別】

(親和群・本人回答:58人)



【年齢】

(親和群・本人回答:58人)



## (2) 年齢階層別推計値

○函館市全体におけるひきこもり状態にある方の推計人数

広義のひきこもり群	4,202人	内訳 15歳～39歳の方…1,824人 40歳～59歳の方…1,692人 60歳～64歳の方…686人  内訳 15歳～39歳の方…693人 40歳～59歳の方…694人 60歳～64歳の方…149人
狭義のひきこもり群	1,536人	

年齢区分	有効回答数(人)				有効回答数に占める割合(%)		
	全体	広義のひきこもり群	親和群	狭義のひきこもり群	親和群		
15歳～19歳	237	7	4	10	2.95	1.69	4.22
20歳～24歳	90	4	2	6	4.44	2.22	6.67
25歳～29歳	131	4	1	5	3.05	0.76	3.82
30歳～34歳	120	10	3	7	8.33	2.50	5.83
35歳～39歳	194	8	3	11	4.12	1.55	5.67
小計	772	33	13	39	4.27	1.68	5.05
40歳～44歳	157	6	1	6	3.82	0.64	3.82
45歳～49歳	181	5	3	3	2.76	1.66	1.66
50歳～54歳	149	5	3	2	3.36	2.01	1.34
55歳～59歳	240	9	3	3	3.75	1.25	1.25
小計	727	25	10	14	3.44	1.38	1.93
60歳～64歳	416	23	5	5	5.53	1.20	1.20
総計	1,915	81	28	58	4.23	1.46	3.03

年齢区分	住民基本台帳人口(R2.4末) (単身世帯を除く)	函館市の推計値(人)		
		広義のひきこもり群 推計値	狭義のひきこもり群 推計値	親和群 推計値
15歳～19歳	8,990	265	151	379
20歳～24歳	5,953	264	132	396
25歳～29歳	6,269	191	47	239
30歳～34歳	8,162	680	204	476
35歳～39歳	10,293	424	159	583
小計	39,667	1,824	693	2,073
40歳～44歳	12,361	472	78	472
45歳～49歳	13,949	385	231	231
50歳～54歳	11,935	400	240	160
55歳～59歳	11,618	435	145	145
小計	49,863	1,692	694	1,008
60歳～64歳	12,413	686	149	149
総計	101,943	4,202	1,536	3,230

### (3) 調査結果のまとめ

#### ■本人向けアンケート調査

- ・同居家族は、広義のひきこもり群の40歳～59歳の年代で「配偶者」の同居と同程度に「父親」「母親」との同居が多かったことから、高齢の親と同居するひきこもり者が一定程度存在することが確認された。【Q5】
- ・小中学校の頃の家庭での経験をたずねた設問では、広義のひきこもり群の40歳～59歳では、「我慢をすることが多かった」「親と自分との関係が良くなかった」との回答が多かった。【Q11】
- ・ひきこもりになったきっかけは、15歳～39歳では「人間関係がうまくいかなかったこと」「不登校」などの回答が多く、40歳～59歳では「病気」「人間関係がうまくいかなかったこと」と答えた者が多く、また、60歳～64歳の「退職したこと」をあげた者が多かったことから、学校、職場等での取り組みが重要である。【Q20】
- ・ひきこもりの状態について関係機関に相談したいか聞いたところ、15歳～59歳までの年代で「非常に思う」「思う」「少し思う」と答えた者の合計は、約4割となっており、どのような機関に相談したいかの問いには「親身に話を聞いてくれる」「無料で相談できる」「精神科医がいる」などと答えた者がいた一方、60歳～64歳では、相談したいと「思わない」が多数を占めた。【Q21】また、相談したい関係機関も「あてはまるものがない」という回答が多かったことから気軽に相談できる体制づくりが必要と思われる。【Q22】
- ・ひきこもりからの立ち直りに向けての自由回答では、人間関係のストレスの緩和や、うつ病等の適切な治療、転職や進学などの環境の変化などが役立ったとの回答が多かった。【Q28自由回答】
- ・悩みの相談相手について、「親」「友人・知人」「配偶者」などが多い一方、「誰にも相談しない」という人も多く見られた。【Q31】

#### ■家族向けアンケート調査

- ・ひきこもり群を判定する設問では、家族回答の方が本人回答よりも狭義のひきこもりに該当する者が多くなっている。【Q10】
- ・ひきこもりになったきっかけの家族回答では、15歳～39歳では「病気」が最も多く、「人間関係がうまくいかなかったこと」「不登校」が続き、本人回答と差が見られた。【Q13】
- ・家族にひきこもり者本人が関係機関への相談したことがあるかたずねたところ、60歳～64歳では「ない」と回答した者が8割を超えていた。【Q14】
- ・本人が相談したことがある関係機関は、ハローワーク・若者サポートステーションなどの就労支援機関、病院・診療所の回答が全年齢層で多かった。【Q14-1】【Q15-1】

- ・ひきこもりの支援のあり方についての自由回答では、マスコミを利用した相談窓口の周知や登校できない子らの「居場所づくり」、病院や福祉サービス事業所等の「専門医・専門家への相談体制」「ひきこもりの傾聴」や「受容」など多様な意見が寄せられた。【Q20 自由回答】

## ■ 民生委員・児童委員回答より

- ・50歳代のひきこもりの人の家族構成を見ると、母親と暮らしている人の割合が多かった。【問3】
- ・ひきこもりに必要な支援策として「支援・相談窓口の周知・PR」を求める回答が多く、一方、自由回答からは、個人情報の問題等もあり、委員としての限界があることが読み取れた。【問4】
- ・その他の回答として「関係機関の連携・相談窓口」はもとより「家族内での対応」を挙げる回答が多かった。【問5】

## ■ 調査結果から得られた課題

- (1) 40代、50代のひきこもり者のうち、父や母が主に生計を立てていると回答した割合が3割以上であることから「8050問題」への対応が早急に必要である。
- (2) ひきこもりのきっかけとなる「不登校」や「職場でのメンタルヘルス」の取り組み、定年退職後の社会参加活動の促進などの働きかけが、今後も引き続き重要である。
- (3) 本人、家族とも相談機関に相談したことがないとの回答が多かったが、各年代を通じ、ひきこもりに関する相談を気軽に行える相談支援体制の構築や専門職による対応等が求められている。
- (4) ひきこもりの支援について、家族回答からは、相談窓口などの社会環境の体制づくりのほか、ひきこもり者が集まる居場所づくりや外部からのアプローチなどもあげられており、多様な支援が求められている。
- (5) 民生委員・児童委員からの回答で、相談窓口の周知・PRを求める意見が半数以上を占めていたことから、各年代に合わせた周知方法を工夫していく必要がある。